

住民の意見聴取(会)終了後、初の特委開催



示された意見の「廃炉」「再稼働」「その他」の分類は、非公表とする

委員会は原則公開

しかし、とりまとめの公表方法の議論は非公開？

15日開催の委員会では冒頭、委員長が議題の進め方の変更を諮ってきました。委員会召集通知では、1番目が「意見聴取会の感想」となっていますが、2番目の「意見とりまとめの結果公表の方法」についてを1番にして、非公開で行い、公開方法が決定してから委員会を公開し、「感想」、「今後の委員会の進め方」と、議論を進めたいというものでした。

公表方法についての議論を、なぜ非公開にする必要があるのか、委員長・副委員長の提案が理解できませんでした。もちろん個人情報をあからさまにしながら議論をするわけではまったくありませんから。

そして本当に残念なのが、主に原発推進の委員でしたが「非公開でよい」と述べ、非公開にしてしまった多数の委員の議員としての姿勢が疑われることです。

意見の分類は公表しない？



公表方法の議論は、紛糾しました。ワーキンググループで、「廃炉」「再稼働」「その他」の分類を、委員長・副委員長のリードのもと行い、一覧表にしておいたのですが、この分類の数字を公表するかどうか意見が分かれたのです。

ワーキンググループの仕事は、委員会としての仕事です。そうであるにもかかわらず、公表すべきでないと言う委員の意見は、「分類は委員の参考のために行ったもの。委員会としての公表を行えば、住民に誤解をまねく、数字が一人歩きする。寄せられた意見が廃炉なのか再稼働なのか、その判断は正確なものと言えない」。しかし、「委員が個人的にすべてを公表するのは、個人の責任だからかまわない」と言う理屈です。

委員会がまとめたものを委員個人が公表したら、委員会の公表と変わらないのではないのでしょうか？

そして何と、副委員長は公表に反対をしました。私も、ワーキンググループの1メンバーとして作業に関わってきましたが、最後のワーキンググループ会議に示されたとりまとめ一覧表には、「廃炉」「再稼働」「その他」の分類がされていて、副委員長は、「公表はこの表までならいいのでは」という意見を述べていました。もちろんワーキンググループで話し合う必要はなかったのですが、副委員長のリードで、公表方法についてそれぞれ意見を出し、まるでワーキンググループとしての案をまとめたかのような話し合いをしたのです。しかし、委員会ではそのことにはまったく触れず、「公表に反対」の意を表した副委員長の意図がわかりません。

住民に報告できない議会活動など無い

そもそも、住民に報告できない議会活動などありません。委員会の一部（1時間以上）を非公開にしたことと、取り組みの一部を非公表とする判断は、税による報酬をいただきながら、住民の代弁者として働く議員という立場をなげだし、軸足を住民以外のところにのけた誤った判断と考えます。



東海第二発電所に関する意見集計表から

(詳細は後日、議会報告等でお知らせします)

ホームページ	1339人	男	983人
記入用紙の計	241人	女	674人
意見聴取会発言	77人		

合計1657人

村内計394人 在勤者183人 村外1080人
廃炉1088人 再稼働519人 その他50人